

# 麻布の丘に

## 沼津 江原素六記念公園落成

沼津市にあつて、江原素六先生の銅像とともに親しまれてきた江原公園が国道一号線の拡張計画で移転を迫られることとなった。おりしも今年、愛鷹山山麓地域が、江原先生その他先人たちの骨折りによつて、地元の村々に払い下げられてちょうど百周年にあたり、愛鷹山御料地払下げ百周年記念事業の一環として新公園を設立することとなつた。麻布学園が毎年江原先生の墓参りの際にお世話になつている江原素六先生顕彰会(青木由明会長)などが中心となつて移転先を探した結果、元の公園より北へ七〇〇m、江原先生の墓所近く、はるか駿河湾を見渡せる小高い丘のうえにこの上ない土地が見つかった。(沼津市東熊堂字東本陣六一七・一。二〇〇〇平米)。

新公園が、二一世紀村づくりの拠点となることを念願する地元の方々の献身的な努力があつて、この地に江原先生の銅像を移築し、公園としての整備工事を施した結果、さる五月一九日、新公園の落成式が盛大に行われる運びとなつ

た。当日は江原先生の記念日にあたり、麻布学園からは新中一(三百一名)が恒例の墓参をかねて式典に一部参加した。生憎の雨であつたが、校長をはじめ、一同江原先生の遺徳を偲び、新公園の完成を祝つた。(氷上)



辞 自ら学びつゝ  
祝 校長 根岸隆尾

愛鷹山御料地払下げ百周年おめでとうございます。本日、この記念式典に参列させて戴

き、顕彰会の皆様をはじめとする地元の方々の、江原素六先生への崇敬の念、なお益々厚いことに深い感銘を憶えるのであります。新しく開かれたこの「江原素六記念公園」に立ち、先生の立像を拝したとき、心が自ら澄んでいくのを感じます。晴れていれば愛

広報誌

第2号

1999年10月16日

発行  
麻布学園

〒106-0046  
東京都港区  
元麻布2-3-29

Tel.03-3446-6541  
Fax.03-3444-2337

全学年一斉に

### 学級定数減

来年度から  
43人7学級

鷹山を背に遥か眼下に駿河湾を一望するこの地は、土地高燥にして空気が清良、必ずや先生の御心に適つてまいしよう。先生は、駿河人として霊峰富士を讃え、「富士は、常に崇高雄大な姿を以て、接する人々の心に清い美しい崇厳な觀念を起こさせ、人生に対して無限の良い感化を与えている。」と語っています。本日沼津に参り、創立者江原素六先生の事跡に触れる私も麻布中学新入生三百一名の生徒の心に必ずや、良い感化を与えるに違いありません。ここに改めて、この場をお借りして、例年私どもを暖かく迎え入れて下さる社団法人江原素六先生顕彰会の皆様、又明治資料館、少年自然の家、地元の方々に厚く御礼申し上げます。

年、とりわけ十二三歳から十七八歳の中高校生は、一方で時代と環境の影響をまともに受け、軽桃浮薄な現実に流され易い反面、絶えず物事の本質的なものを求め、真正なものを直観する力を備えています。なればこそ、私ども中等教育に携わる者にとつて肝に銘ずべきことは、自らが学び続ける行為者となつて、生徒と共にあることでありましょう。私は今、江原先生のこんな文章の一節を思い浮かべます。「学校教師が、生徒に講義をなさんとするにあたり、



麻布学園では、懸案であつた一クラスの生徒数(学級定数)減を二〇〇〇年度から、中学・高校全学年で一斉に実施する。これにともない各学年とも七学級編成(一学級四二〜四三人)となるため、普通教室の確保が課題となつていたが、夏休み中に合併教室・実験室・研究室などの配置換えや改修工事を終え、解決した。定数減よつて学級での指導は当然の事ながらこれまでよりもきめ細かなものになるが、学校全体としてのきめ細かな指導をどう確保していくか、さらに議論が深められようとしている。なお、カリキュラムの変更は当面ない。

(山内)

真心をこめて準備すると準備せざるとによりて、生徒に与える感化に大なる差がある。(中略)旧幕のころ、佐藤一斎として、博学強記を以て有名な儒者があつた。ある日のこと、夜十時頃帰宅するや、直ちに書齋に入り、端坐して読書をされた。(三頁に続く)